

今年の福島市公立学校の夏休みは32日間である。約1か月である。これだけあれば、何かはできそうなものである。それが、思った以上に早く過ぎていく。気がつけば、お盆が明け、急に焦りだす。

4週間あるわけだが、最初の1週間は、出張や研修会と慌ただしく過ぎていく。中体連の県大会もある。8月に入り第1週目は比較的ゆったりできる。以前はそう思っていた。ところが、昨年はずっと仕事に追い込まれていた。イメージとはだいぶ違った。

今年はというと、8月5日（金）・6日（土）に、「第49回全国海外子女教育国際理解教育研究大会福島大会・第8回東北ブロック海外子女教育国際理解教育研究大会」という長い名称の大会を控えている。要するに、福島で東北大会を兼ねた全国大会が開かれるというわけである。

この大会には、こんな経緯がある。本来であれば、福島大会はすでに終わっていたはずだった。福島大会は、2011年8月に行われるはずだった。2011年といえば、そうである。東日本大震災の年である。8月人事で8月1日に人事異動があった年である。何の因果か、大震災の年に福島で全国大会とは。状況から考えて、やむなく中止となった。

したがって、11年越しの福島大会なのである。ところが、今度はコロナ禍である。対面で行うか、完全オンラインで行うか、ハイブリッドで行うかの検討が必要となった。最初から、中止という選択肢は用意されなかった。どんな形にせよ、今回は福島で全国大会をやる、それが大原則だった。

できれば、対面で開催し、全国各地から参加者に来ていただき、復興から10年以上が経過した“フクシマ”の様子を知ってもらい機会にもしたかった。だが、福島県の温度感からすると、全国からたくさんの人を集められる状況にはないと判断した。全国の方々の意見を聞いていると、各都道府県により、温度差があることがよくわかる。判断した時点と8月1週目とでは、コロナの状況も変わっているかもしれない。今までも、そういったことがよくあった。自ずと慎重にならざるを得ない。人を集める範囲と人数が違う。全国というスケールで考えなければならない。

結局、福島の会場には、我々福島県の事務局員と全国の事務局の方だけが集まることとなった。参加者はオンラインとなる。全国の会長様をはじめ事務局の方に来ていただけるだけでもよしとするしかない。この方々は、11年前に本来ならば福島に来ていただいていたメンバーである。

今年は、8月5日（金）・6日（土）が無事に終了して、ようやく夏休みという感じになるのだろう。ちょっと一息つくと、お盆が過ぎているに違いない。そして、また焦りだす。進歩がない。夏休みをどのように使うか、何年経っても解決しない。意外とむずかしい課題である。